

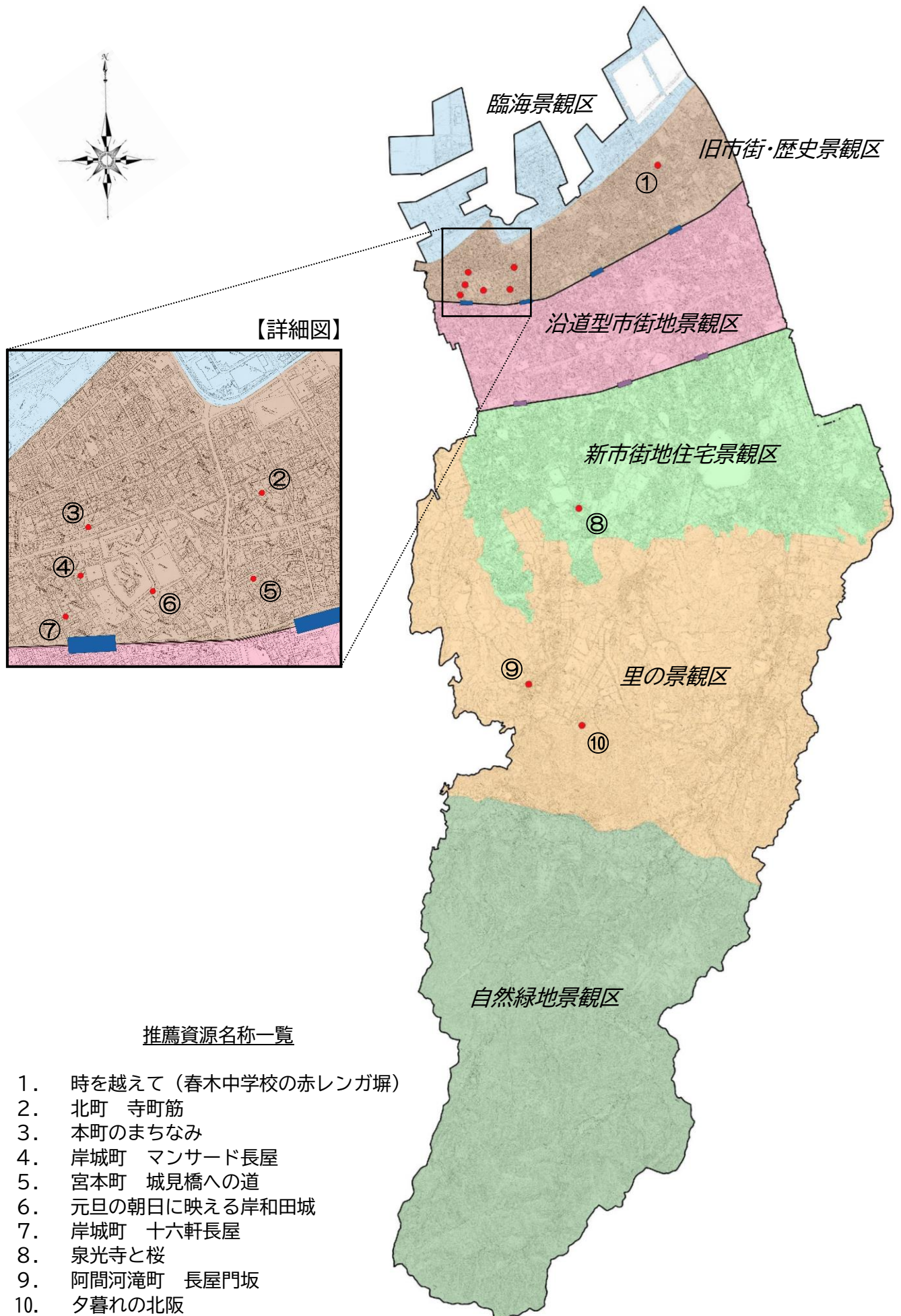
令和元年度

こころに残る景観資源（まち景観）10件について

令和2年2月3日

岸和田市景観審議会

ここに残る景観資源（まち②）の推薦箇所一覧



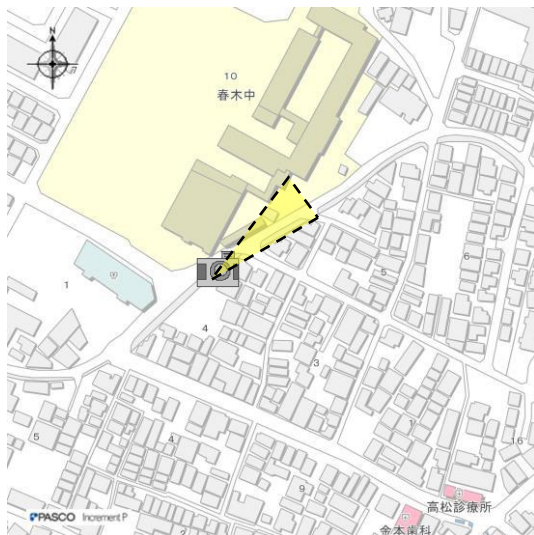
1. 推薦資源の詳細と講評

① 時を越えて（春木中学校の赤レンガ塀）

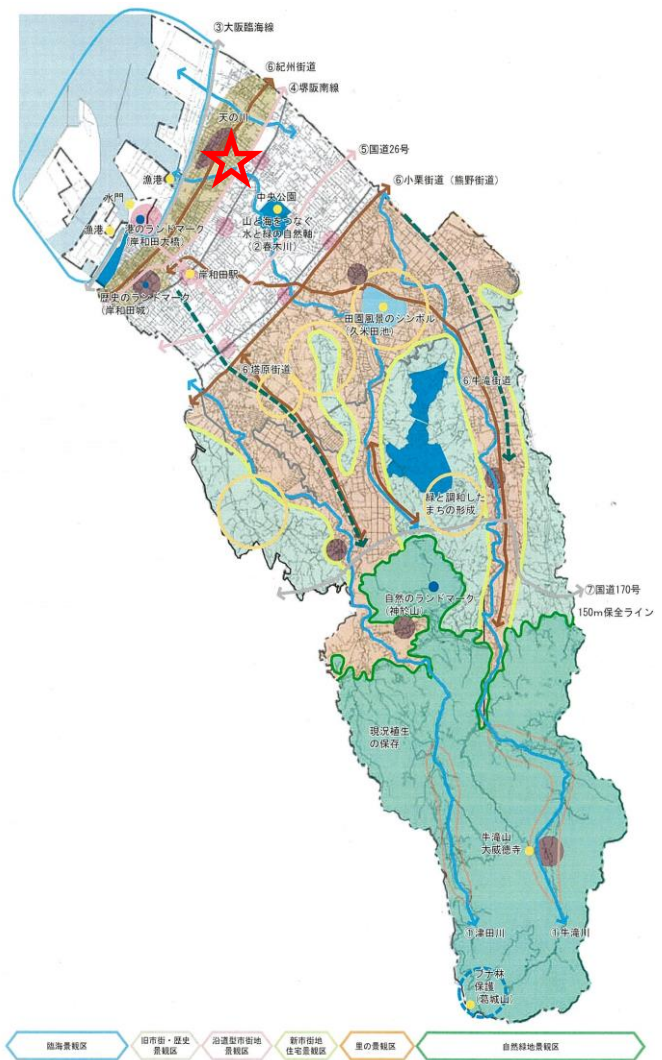
【写真】



【位置図】 大芝校区



【景観誘導図】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	—

■エピソード No. 20 「時を越えて（春木中学校の赤レンガ）」

春木中学校に数百メートルに及ぶ赤レンガの塀があります。その昔、東洋のマンチェスターと言われた大阪の一大工業地帯の一角を担った岸和田の紡績工場跡の名残りが今も感じられます。百年を超える時の流れとともに通学する児童や地域の方々をこれからも見守り続けてくれることでしょう。(51 歳男性)

■講評

春木中学校には、春木地区の歴史を今に伝える赤レンガ塀が今も残り、印象深いまち景観である。百メートル余り続く赤レンガ塀は、大正時代に建造され、泉州の経済を支えた産業遺産として興味深いものである。卒業生や在校生を見守り続けている春木地区のシンボルとして、これからも受け継いでいてもらいたい。

② 北町 寺町筋

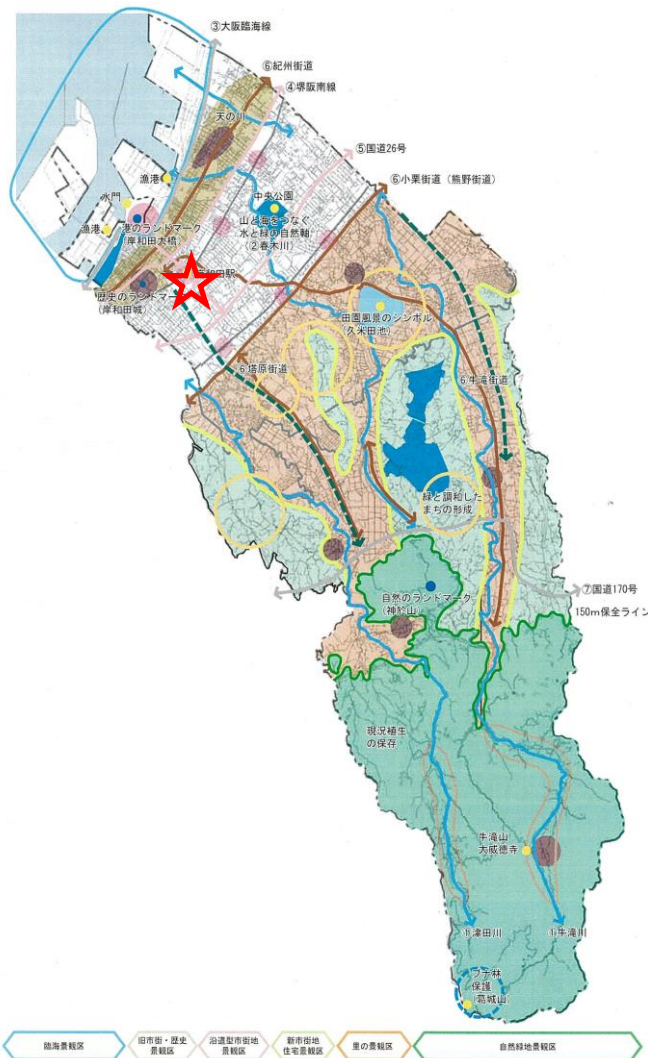
【写真】



【位置図】 中央校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	岸和田駅周辺

■エピソード No. 12 「歴史を感じる寺町筋」

岸和田駅から商店街を通過して脇道に入ると、由緒あるお寺が連なる寺町筋と言われるまちなみに出会いました。明智光秀の肖像画で有名な本徳寺など市街地とは思えない静寂と歴史を感じる佇まいが印象的な景観です。また、道路には隠し文字がありますので探して見て下さい。(45歳女性)

■エピソード No. 35 「北町の寺町通り」

台風一過の朝の様子。パンチのある寺町らしいスカイラインが好きです。未永く残してほしい、岸和田の名所です。(71歳男性)

■講評

寺町筋は、寺院が立ち並び歴史の重厚さを感じるまち景観である。修景整備されたまちなみは、訪れる人々を魅了し、ひと時の安らぎをもたらすことだろう。寺町の成り立ちや寺院の由緒に思いを馳せながら、まち歩きを楽しんでもらいたい。

③ 本町のまちなみ

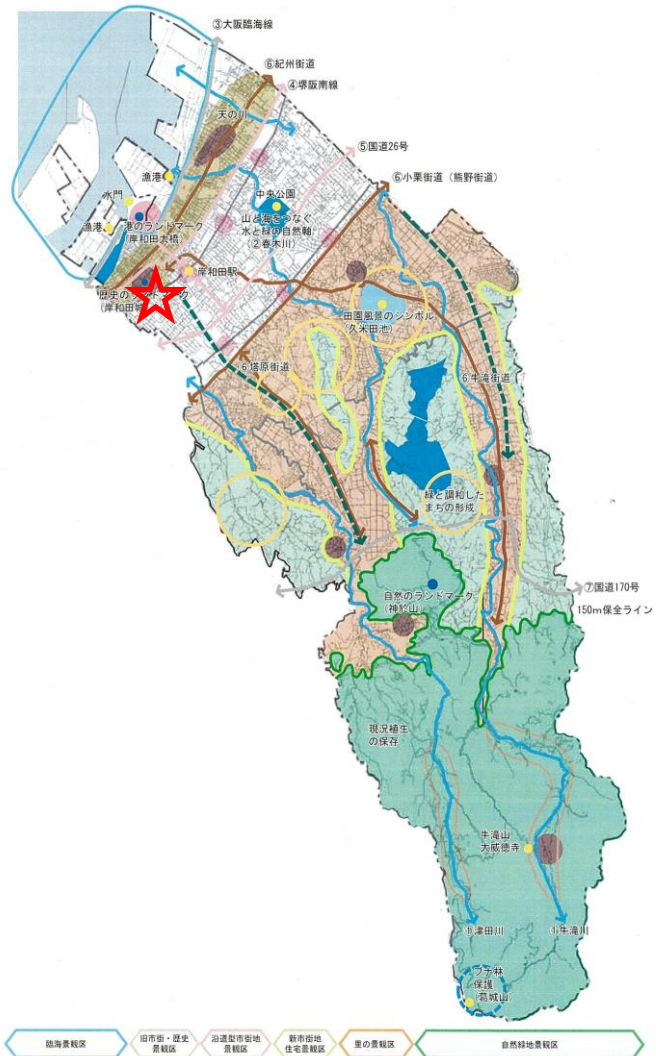
【写真】



【位置図】 中央校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No. 23 「本町のまちなみ」

歴史を感じる町家建築が建ち並ぶ本町の紀州街道は、岸和田らしさを印象づけるまち景観だと思います。

岸和田祭礼のときも良いですが、日常の静寂な雰囲気がここに残るお勧めの景観です。(51歳男性)

■講評

本町の紀州街道沿いは、城下町の風情が今も残り岸和田を象徴するまち景観である。往時の町家や「本町のまちづくりを考える会」の修景によりまちなみが保全され、本町への愛着が感じられる。郷土への誇りと愛着が込められたこの歴史的なまちなみを、いつまでも継承してもらいたい。

④ 岸城町 マンサード長屋

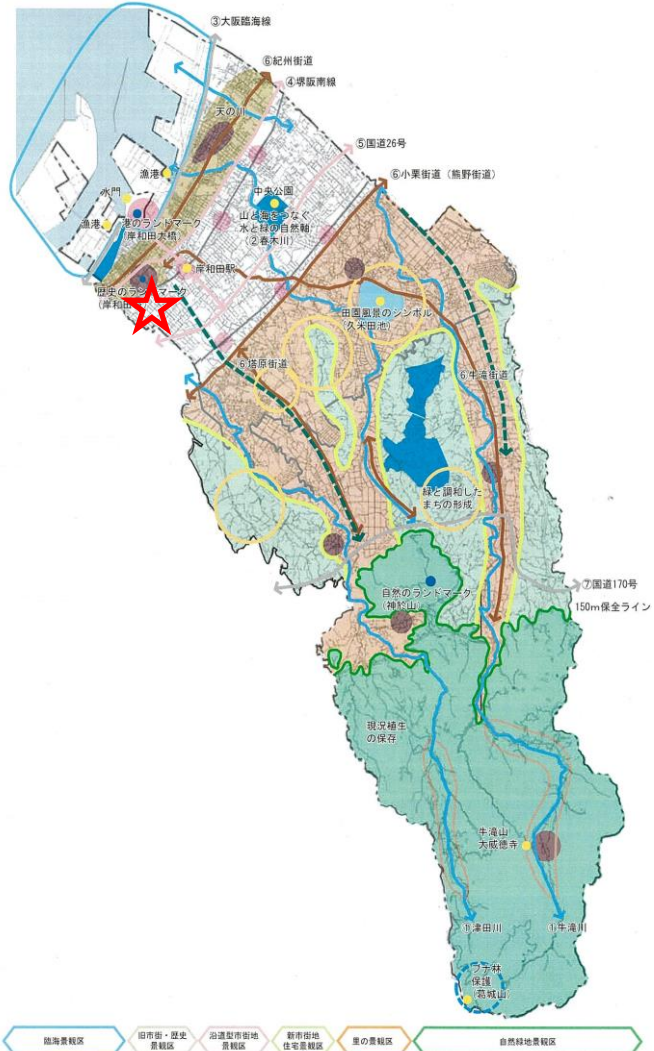
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No. 38 「マンサード長屋通りー岸城町南」

100 年近くたって改装もみられますが、当時の高級洋風長屋の様子がみられます。子供の頃中へ入れてもらうのが楽しみでした。施行者は岸和田高校旧校舎 (RC) や十六軒長屋も請負った中筋組との事。(71 歳男性)

■講評

人々の暮らしが息づくマンサード長屋は、子どもの好奇心をくすぐる印象的なまち景観である。大正時代に建築された洋風長屋は、往時の息遣いと住民の愛着が感じられ、地域の景観的シンボルとなっている。周辺には、様々な時代様式の建造物が数多く残されており、岸和田の歴史の歩みを知るうえでも貴重な存在である。

⑤ 宮本町 城見橋への道

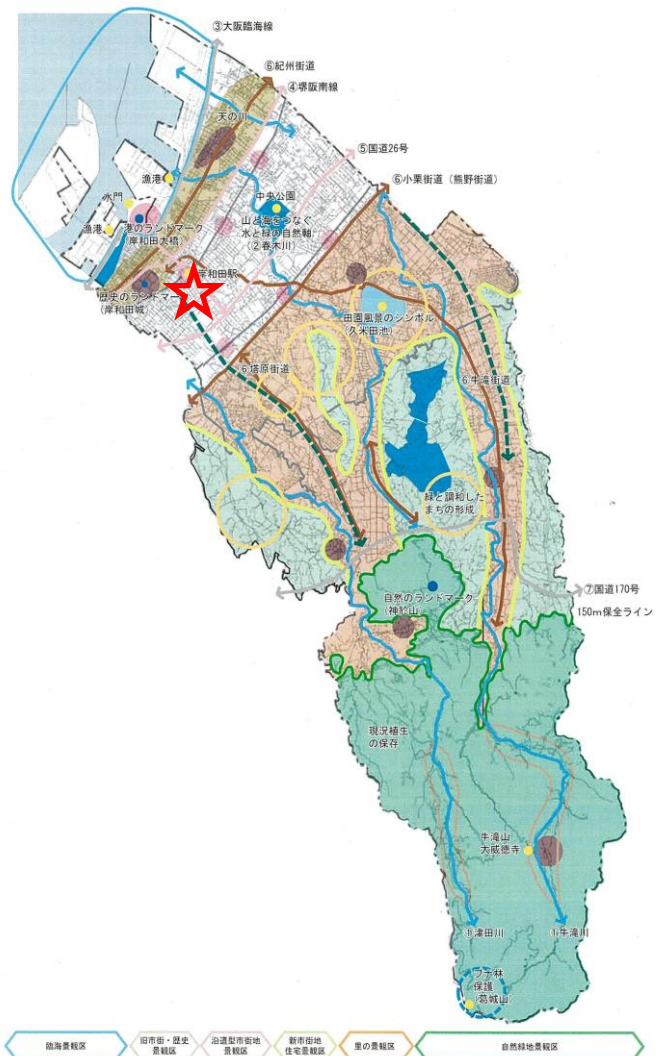
【写真】



【位置図】 中央校区



【景観誘導図】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No. 36 「城見橋への道—宮本町」

城見橋を渡って岸和田駅へ向かうときは、必ずこの道を通ります。帰途もこの道です。岸和田に住む誇りを感じる道ともいえます。(71 歳男性)

■講評

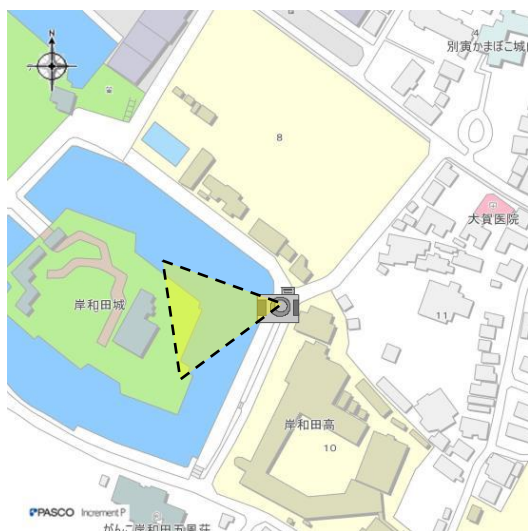
古の城郭を今に伝える城見橋へと続くまちなみの一角に、町家と漆喰の蔵が印象的なまち景観を見ることができる。道路を挟んで立ち並ぶ建造物は、歴史の趣を感じさせつつ、景観への配慮を周辺にもたらしめている。城下町ならではの佇まいを効果的に伝える視点場として、これからも大切に保全願いたい。

⑥ 元旦の朝日に映える岸和田城

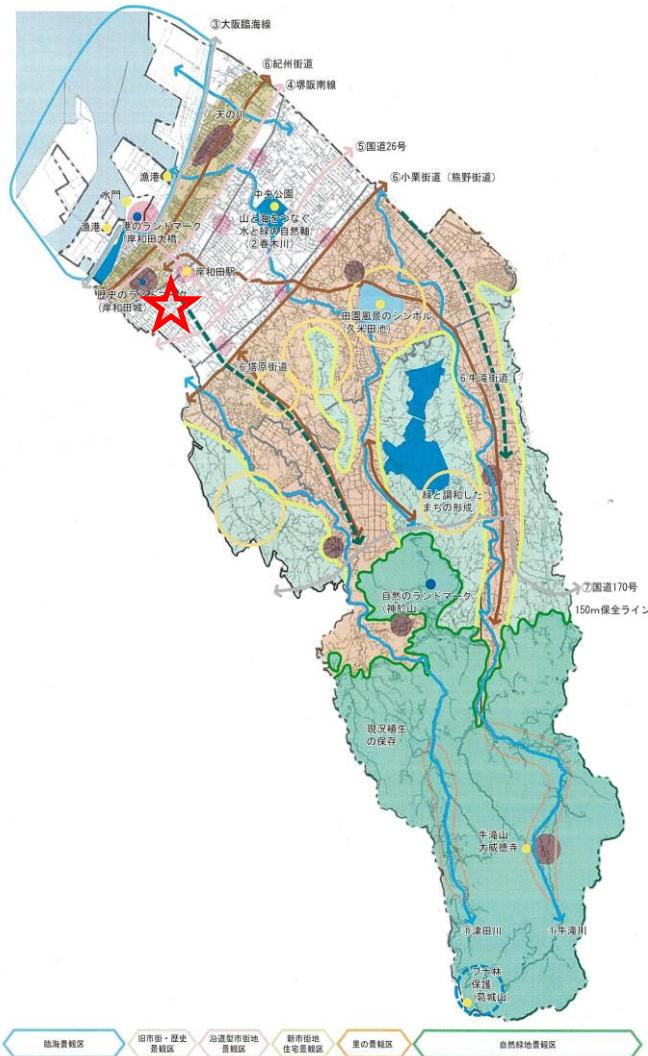
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No.1「元旦の朝日に映える岸和田城 (Kishiwada Castle was illuminated in the morning sun.)」

平成 31 年 1 月 1 日。7 時 41 分。朝日に照らされた岸和田城。20 年間、(公財)大阪府国際交流財団のホームステイ担当として登録している。これまで多くの外国人の方が我が家に来た。必ず案内するのはここ「岸和田城」と「だんじり会館」とてもよろこばれている(^ ^)岸城神社を出て左手に岸和田高校がある。その近くのお堀から撮影した。朝日に映えるお城はなかなか風情があり神々しく感じられ、思わずシャッターを切った。(56 歳女性)

■講評

岸和田のシンボルといえる岸和田城は、国籍を問わず歴史の風情を共感できるまち景観である。元旦の朝日を受けて浮かびあがる天守のシルエットは神々しく、また、これからも人々の思い出に刻まれ続けることだろう。岸和田市民に愛され、ここに残る岸和田城の魅力を、多くの海外の人々にも知ってもらいたい。

⑦ 岸城町 十六軒長屋

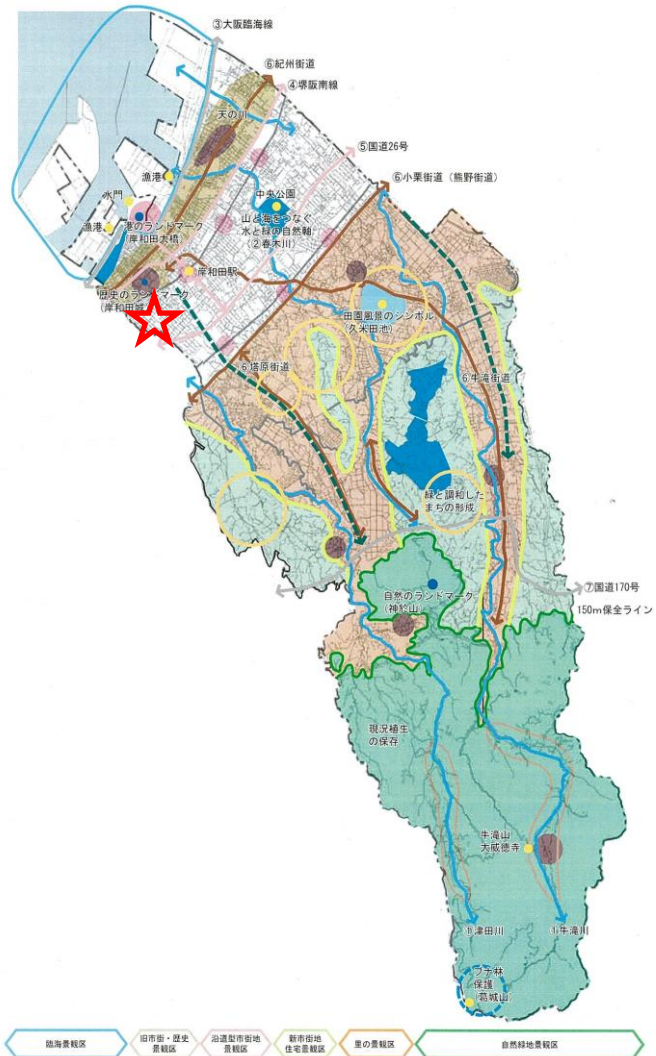
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No. 9 「十六軒長屋のあるまちなみ」

蛸地蔵商店街から一本入ったところに十六軒長屋が連なる町並みがあります。大正時代に建てられた長屋住宅は今も大切に使われており、地域の歴史と趣を感じるまち景観だと思います。(45 歳女性)

■エピソード No. 16 「十六軒長屋」

この長屋は大正時代からあり、今も現役でこの場所を見守り続けているそうです。ずっと岸和田市に住んでいましたが知りませんでした。市民より観光で岸和田市に来られる方のほうがよく知っているのではないのでしょうか。長屋がずらっと並ぶこの場所は実際見てみると圧巻です。(23 歳女性)

■エピソード No. 37 「十六軒長屋通り—岸城町南」

60 年前城内小学校への通学路のひとつでした。同級生も何人か住んでいましたが皆どうしているのかな？全長 120M、大正 11 年（1922）に建てられた質の高い和風長屋は城内に残る価値ある風景といえるでしょう。(71 歳男性)

■講評

大正時代に建造された十六軒長屋は、人々の営みが垣間見える印象的なまち景観である。百数十メートルに及ぶ長屋が連なるまちなみはまさに圧巻であり、この景観が今日まで保全されていることに敬意を表したい。これからも息づかいを感じさせるかけがえのないまちなみを守り続けてもらいたい。

⑧ 泉光寺と桜

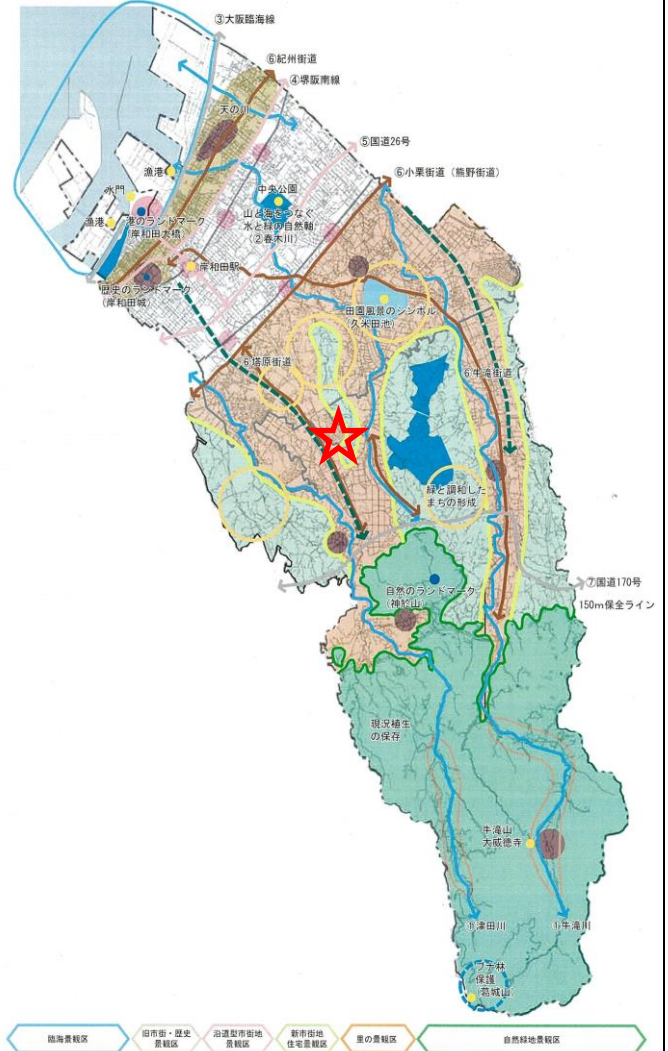
【写真】



【位置図】 常盤校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	新市街地住宅景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	—

■エピソード No. 7 「泉光寺の桜」

岸和田藩主岡部氏の菩提寺として有名な泉光寺。歴代藩主の五輪塔や、門前を彩る桜が美しく咲き誇る印象深い場所です。(56歳女性)

■講評

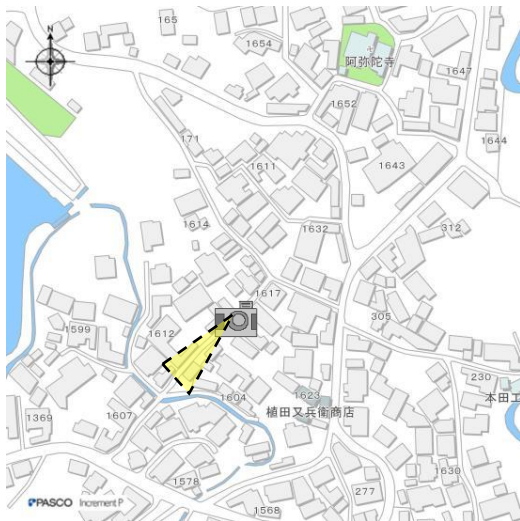
岸和田藩主の菩提寺として高名な泉光寺は、四季折々の趣と歴史の重厚さを感じるまち景観である。桜や紅葉とのコントラストが美しい山門と、歴代藩主の五輪塔が整然と並ぶ風景が印象的である。これからも市民の誇りとしてこの景観を受け継ぎ、また、多くの人々に訪れてもらいたい。

⑨ 阿間河滝町 長屋門坂

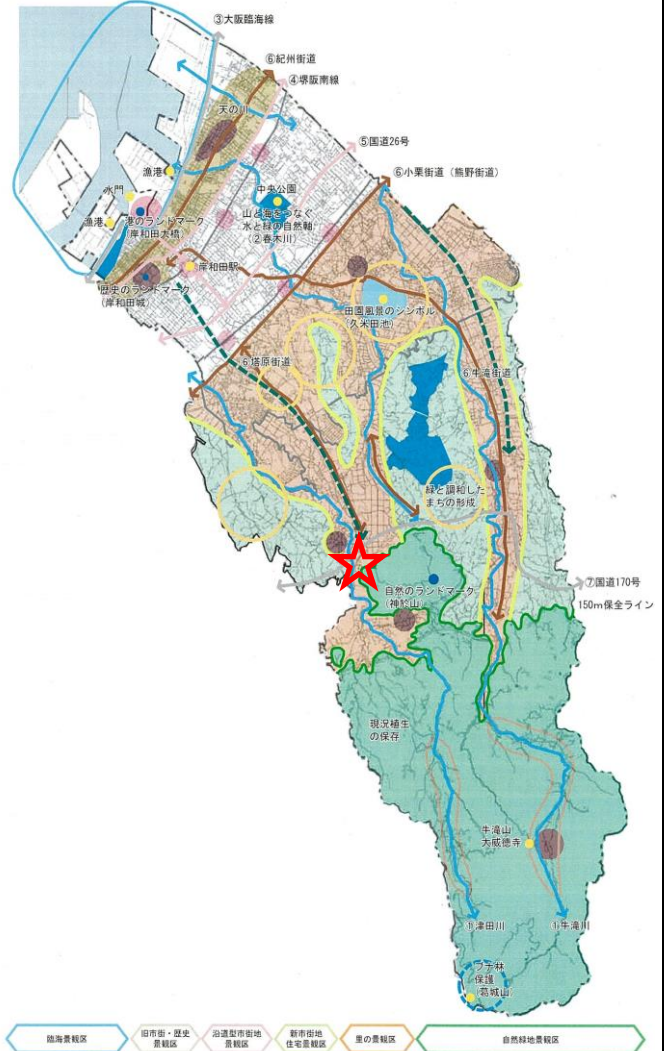
【写真】



【位置図】 修斎校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	牛滝川・津田川
景観配慮地区	阿間河滝周辺

■エピソード No. 33 「長屋門坂—阿間河滝町」

一見武家屋敷街のような長屋門の街並み。道路の舗装を工夫すれば時代劇のロケ地として売り出せそうですが、岸和田市には他にも積川旧牛滝道などロケ地になりそうな道が沢山ありますね。(71歳男性)

■講評

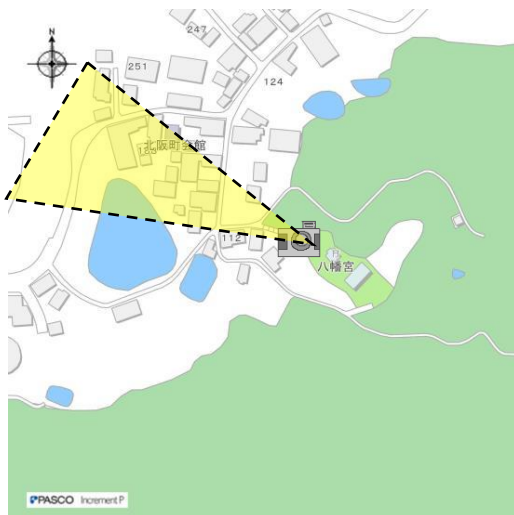
坂のあるまちとして知られる阿間河滝町を代表する長屋門は、自然の地形を活かしたまちなみを象徴するまち景観である。人々の暮らしが息づくまちなみは、郷土への愛着と誇りが感じられ、敬意を抱かずにはいられない。石垣と階段状に建てられた長屋門、伝統的なしころ建て母屋など、地域のアイデンティティをこれからも守り続けてもらいたい。

⑩ 夕暮れの北阪

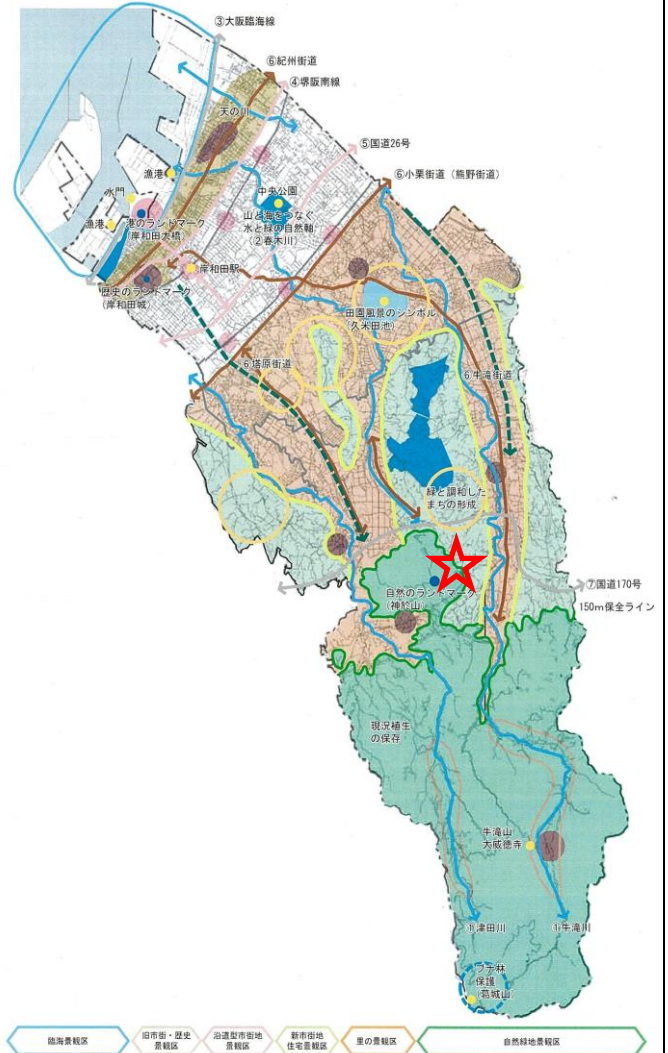
【写真】



【位置図】 修斎校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	国道 170 号
景観配慮地区	神於山周辺

■エピソード No. 17「夕暮れの北阪」

あまり知られていない神社だと思いますが、すごく景色がよく夜景も見ることができるので自分だけのお気に入りの場所です。また、どういう経緯でこの神社が建てられたのか知りたいです。そして近くには同じく景色のいい北阪町観光農場があり秋から冬にかけてみかん狩りをするので少しでもPRになれば嬉しいです。(21 歳男性)

■講評

知る人が少ないであろう北阪八幡宮は、その境内から望む大阪湾への眺望が印象的なまち景観である。参道を彩る植栽や境内地は、綺麗に管理されており北阪の人々の親しみと愛情が感じられる。地域の人々に守り育まれたこの風景を、多くの人々に知っていただきたい。

2. 総評

今回実施したまち景観は、地域を特徴づけるまたは核となる景観要素として魅力が感じられるもの、そこに暮らす人々の営みや賑わい、歴史の趣き深いまちなみなど合計 40 件の応募があった。

まちかど審査では例年多くの市民の皆さんが投票に参加され、岸和田の景観を代表する岸和田城、歴史情緒あふれる本町や阿間河滝町のまちなみなどの著名な景観や、地域活動や人々の暮らしにより培われた個性あふれる景観など、有名無名を問わず岸和田の多様な景観に触れることができ、これまで以上に郷土への愛着と新たな景観を知ることができたのではないかと思う。

本委員会の選考に際しては、現地調査などを通じ、写真だけでは伝わらない地域の魅力と応募者や関係者の想いに触れ、共感し、また、長年守り続けたまちなみに感銘を受けた。ここに改めて関係各位の想いに敬意の念を伝えたい。

今後もここに残る景観資源発掘プロジェクトを通じ、様々な場面で岸和田の優れた景観に出会い、岸和田の魅力が広く人々に認知され、守り続けられることを期待する。

岸和田 景觀 MODE